

(5) 産 業

最初は、穀物と牧羊の地であったが、徐々に果樹園や市場街が形成されていった。現在、この農業の分野は、アデレードや国際市場に花や野菜といった農産物を供給する方向に発展している。

商業、工業の面では、特に自動車、軽工業の製造基地として発展している。自動車関連会社は多数あるが、世界最大級の生産高を誇ると言われるウール加工会社、巨大なスーパーマーケットの他、パイロット養成所、ハイテク関連企業の集まったテクノロジーパークや未来型の住宅開発地や大学もある。

特に、最先端の防衛の研究をする科学者を多く雇用している連邦政府の防衛研究施設があり、電気、情報技術、通信技術の分野が進んでいる。市内にあるサウスオーストラリア州立大学の工学、情報、通信は、特に進んでいる。

(6) 地 形

昔は、茂原のように湿地帯であったようで平坦で傾斜が少ない平地であり、一部東部に高台があり海岸方向に傾斜。市は海岸方向の土地へと成長をしてきたが、東部地域の開発された土地からの暴風雨の流水に取り組みむこととなった。

約25年前、調節池の開発に取り組み、現在までに28の調節池を開発し、大成功をしている。環境保護、生態系の保護にも貢献。自然繁殖地、生態観光事業に発展した。100年に一度来る洪水からも完璧に守られており、厳しい嵐による家の浸水を防いできている。

また、地域の土壌には塩分を含むが、ソルズベリー市は塩耐性設備や調節池普及に全オーストラリアや海外からも、その技術が評価されている。



(7) 開 発

郊外にハイテク産業から大学、レジャー施設まで職、住、遊、学を一体化した未来都市(マルチファンクション



ポリス：都市開発、環境技術、管理、情報技術、通信、教育を核に推進)を建設している。そもそも、この構想は1987年の日本の通産省の提案により始まったものだが、日本の飛び領土になる、巨額の投資を必要とするが20年も採算が取れない、日本の技術移転の補償がない、日本側の景気低迷と関心の薄さ等を理由に、連邦政府とサウスオーストラリア州は、1991年に日豪二国のプロジェクトではなく、これを国際的なものへと軌道修正をした。1995年には、米国のモトローラ社など数社が進出し、構想の第一段階が動き出している。

ソルズベリー市は、今後も大きな発展の可能性を持ち合わせた市と言われている。

